

NIE 公開授業（神戸市立横尾小学校×県立須磨友が丘高校）の感想

両校にとって、とても価値のある学習が展開されたと思います。

高校生にとっては、説明することで理解を深める。小学生にとっては、年齢が近く、より身近な人から震災について知る活動が両立できていました。これも新聞があったからこそ、です。

ご準備された事務局をはじめ、高校生、先生方は大変だったとお察しします。より多くの方々に見てもらいたかったなと感じました。

技術面での難しさもあるかと思いますが、オンラインと併用した授業公開になると、更に参加しようという方が増えるかもしれません。ご検討いただければ幸いです。

貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

高校生が小学生に防災について、わかりやすく丁寧に教える姿は、とても微笑ましく思いました。高校生が小学生 1 人 1 人の意見をしっかりと受け取り、きちんと返事を返していたため、小学生も安心して発言することができていたと思います。我々も見習わないといけないと思いました。

内容については、各班に高校生がファシリテーターとして児童の意見を上手に引き出す、グループで当時の記事を使って場面設定を行い、児童が考える→児童の持っている知識を活用して、思考力を働かせる活動となっており、今の教育の在り方を示している方法となっていました。

当時の記事の記載内容を高校生が上手に伝えていたので、過去のことでなく、今目の前で起こっていることのように思いました。表現が適切かわかりませんが、記事が生き返ったように思いました。

記事の内容には、避難所の様子や人々の生活において起こっている問題や課題も取り上げられており、班によっては、モラルジレンマのような場面設定をして、どのように対応するかを児童が考える内容のものもありました。自分事のように考える質問をどの班でも行っていたので、難しかった児童もいたと思いますが、どの児童も深く考えたと思います。

最初と振り返りのところで「学んだ経験を伝える」ことが震災を風化させないことだという言葉はどの児童の心にも伝わったのではないかと思います。ただ、高校生にも最初に我々も震災を経験しておらず、「学んだ経験を今から皆さんに伝える」という言葉があれば、一貫した活動になったのではないかと思います。

授業を行ったのが生徒会防災ジュニアリーダーの生徒達ということであったが、45分という短時間の中で小学生に対し、実践課題の趣旨・意見の出し合い・まとめ・発表までを非常にテンポ良く行っていたのにはとても驚いた。是非とも将来、教員として教壇に立って頂きたい生徒達であった。

公開授業は一つの『実践の結果』であったが、そこに至るまでの取り組んだ
(次ページにつづきます)

内容や意見、それらの時間配分等を知りたくなった。別の機会で構わないので、こちら是非とも発表して頂きたいと考える。

NIEについては、どのように新聞を授業に活用するかというのが実践校の課題になると考えるが、今回の公開授業を参観し、記録資料としての新聞活用がより生徒に大きな効果を与えるのではと感じた。

今回実践を行っていた小学生2クラスは共に20名あまりの児童数であった。やはり探究的な活動を行うには、この程度の人数が一番行いやすいのだろうと感じた。この点を上手に活かした須磨友が丘高校の生徒の着眼点と授業の組み立ては素晴らしかった。

公開授業の実施に関する意見

現場の教員の参加が少なかったように感じられた。公開授業の開催時期は適当であったと感じるが、駐車場の確保があれば、参加希望者も参加しやすくなるのではと思った（公共交通機関での移動だと、参加できる教師が限られてしまうのではないかと）。

次の公開授業の設定、楽しみにしております。できるだけ参加しようと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

高校生から小学生へ新聞を使って防災の授業をすると聞き、強く興味を持ちました。

昨年、本校で中学生が小学生に修学旅行で知った広島のことを新聞にして小学生の歴史の時間で伝えるという授業を見る機会があり、双方共に多くの学びがあり異校種間での学び合いに、大きな可能性を感じていたからです。(感想 <http://www8.kobe-np.co.jp/nie/hyogo/2022/02/post-243.html>)

今回は高校生から小学生で、阪神淡路大震災を経験していない児童と生徒の間での学び合いであり次の世代に「震災を伝える」ということから興味を持ちました。

高校生が小学生に伝えたいことが明確になっていて高校生の周到的準備と小学生の立場に立って目線や言葉、間の取り方など伝え方の工夫が随所に見られ感激しました。

また小学生も、高校生が伝えようとしていることを自分の経験と照らし合わせて懸命に理解しようとする姿や、高校生のリードと支えで学んだことを力を合わせて授業の中で発表するなど、少し年齢差のある協働学習ならではの良さが随所に見られました。

ともに同じ体験をしていなくても記録のDNAのような新聞と一緒に読みこたで、高校生は事実や知識を知るだけでなく、受け手の意識や状態、他者の視点や相手へ寄り添う中で、新聞から得た知識の理解が一層深まり、伝えられた小学生にとってもその深い学びが自分の学びに繋がっていました。

新聞を使いアウトプットを中心にした異校種で学ぶことの可能性を強く感
(次ページにつづきます)

じた公開授業でした。それぞれの高校生、小学生が今日の体験の振り返り、PDCA サイクルを回していくようにさらに交流が重なっていくといいなあと思いました。

横尾小学校 須磨友が丘高校の皆様 本日の公開授業本当にありがとうございました。